

光風水土 ひかりかせみずつち

天気はコントロールできない

梅雨の長雨が続き、各地で未曾有の豪雨となり災害が起きています。

被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。昔から梅雨の豪雨もありましたが、毎年のように繰り返される災害は近年になって激しさを増しているのでしょうか。台風も近年は規模を保ったまま本土に近づき災害をもたらしています。

日本では、雨に限らず自然災害とは切り離せない国土ですが、古来災害（水害）によって土地が潤って稲を始めとした作物を育ててきた歴史があります。その為に、水を制する土木の技術の進歩も目覚ましく、加賀百万石を支えた砺波、富山平野の稲はそれぞれ今の庄川、神通川上流からの森林の養分に富んだ河川の賜物でした。

河川の流れをダム等でコントロールし、上流の天然林は人工林にし森の栄養分の代わりに人工的な肥料で多くの作物の収穫増となり人の住むことのできる地域が広がり、人口そのものが増えてきました。それも災害発生に繋がっていないとは言いません。

地球温暖化が問題となって久しいのですが、人間の活動（自然の破壊）が地球の天候に影響を与えているのは確実でしょう。梅雨の大雨や夏の猛暑、冬の極寒はコントロールすることはできませんが、快適・便利な生活は主に化石エネルギーに頼っています。

コロナウイルスが新しい生活様式を強いています。今こそ「新しい生き方」が求められていると感じます。ヒトは自然の一部、その中で共存しかありません。コロナウイルスや自然破壊が人間関係の破壊ではなく、新たな創造に向うことを祈念します。東井晃一拝